

デンソー山岳部 2015年度 冬山合宿報告書

■山城 南アルプス -仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳

■日程 平成 27 年 12 月 26 日～12 月 29 日

■メンバー 吉田明和 (CL、渉外)、小田修三 (SL、記録)、谷川圭介 (食糧)、町田修 (記録)、金子清 (装備)、津田廣一 (気象)、亀山誠 (会計)、藤田勝啓 (記録)



第1日目 12/26(土) 曇り 行動 4H40M

起床 (5:30) - 出発 (7:00) - 一本 (8:00) - 丹溪荘跡 (9:10) - 八丁坂上一本 (10:25)  
- 長衛小屋テン場 (11:40)

前日の夜 19:00 に刈谷を出て仙流荘近くの駐車場に着く。良く見ると駐車場の脇には休憩室があり一晩過ごせそうだ。前夜泊の寝床をそこに決め、合宿の成功を祈願しつつ乾杯した。起床してから戸台の駐車場まで移動し、準備を整えて7:00に出発した。鋸岳を横目に快調に川原沿いの道を登って行き、丹溪荘跡まで2ピッチほどで到着。皆の歩調が合っていると気持ちが良い。そこから八丁坂の急な登りに入る。徐々に雪もでてきて、いよいよ冬山らしくなってきた。北沢峠のこもれび荘、長衛小屋は年末年始の間は営業しているようだ。長衛小屋のテント場にV8を張ってテントの中で乾杯。しばらくしたところで織機のメンバーの石山さんと相沢さんがテン場に到着した。その後、デンソーと織機のメンバーで夕食をとりながら山の話で盛り上がった。【記：小田】

第2日目 12/27(日) 小雪のち曇り 行動 8H35M

起床(4:30) — テン場(6:15) — 2,300m(7:30-40) — 大滝ノ頭(8:30-45) — 小仙丈(10:07) — 大岩(10:15-30) — 仙丈ヶ岳山頂(11:37-50) — 大岩(12:30-40) — 大滝ノ頭(13:20) テン場(14:50) — 就寝(19:30)

深夜、上空で騒ぐ強風に何度も起こされたが起床時には小康状態。小雪が舞うテント場をアイゼン装着して出発。すぐに、こもれび荘前の登山道より樹林帯に進入。ヘッドライト歩行で高度を稼ぐうちに樹林の間から白々と朝が明けてきた。大滝ノ頭手前で10人程のパーティが下山してきたので話を聞くと「稜線に出ると風が強くて登れない」とのこと。その後も強風で登頂を断念する人達が続出。金子君と津田君も稜線に出て間もなく遅れ気味になり下山することになった。稜線では右側からの強風(西風)が吹き付けてくる。時折、地吹雪になりゴーグルの視界を遮る。瞬間風速30m/sはあるだろうか、油断をすると吹き飛ばされそう。そして奇妙な光景を見た。谷川君のザックにくくりつけたスコップが強風にあおられてまるでヨットの帆のように、するすると上昇してものすごい風を受けている。本人は気が付いていないがスコップが受ける強風も手伝いふらついている。危ない状態だ。近づいて状況を説明してスコップをザックにしまう。耐風姿勢そして風が緩んだ



隙に前進するの繰り返しで小仙丈に到着。そこから10分弱進むと大きな岩場があり、陰にかくれると無風状態で絶好の休憩場があった。ここから進むか戻るか迷うところだが仙丈ヶ岳を目指す。相変わらず風は強いが少しづつ余裕も出てくる。五感(特に耳)を澄ませて強風に対峙する。11:37仙丈ヶ岳に登頂する。正面に甲斐駒、右に北岳その奥に富士山、左は中央アルプス、御嶽、乗鞍、穂高まで展望出来た。記念写真を撮って早々に下山開始。大滝ノ頭からは樹林帯デポしておいたストックを回収してひたすら下り、愛しいテント場に帰還した。結局この日、仙丈ヶ岳に登頂したのは我々だけのようだ。

【記：藤田】

第3日目 12/28(月) 晴れ 行動 8H20M

起床(4:30) — 出発(6:20) — 仙水峠(7:35) — 一本(8:45) — 駒津峰(9:35) — 一本(10:40) — 甲斐駒ヶ岳(11:25) — 駒津峰(12:45) — 双児山(13:30) — 長衛小屋テン場(14:40)

もち入りラーメンで腹ごしらえした後、体調不良の金子さんと織機の2名に見送りされながら、テン場からアイゼンを装着して出発した。しかし今年は雪が少ないこともあり、仙水峠までの道のりではアイゼンは不要であった。仙水峠で一本とりながら一度アイゼンを外し、駒津峰の登りを上がっていく。昨日登頂した仙丈ヶ岳、さらには北岳、塩見岳が高度を上げるにつれ見えてきた。天気はまずまずである。風は昨日とうって変わってなくなっており、そよ風程度で心地良い。登山日和である。駒津峰まで登った後いよいよ甲斐駒ヶ岳にアタックをかける。ルートを見るとやはり雪は少なく、かなり岩肌が見えている。駒津峰ではアイゼンを装着せず、尾根沿いの直登ルートを進む。岩に若干雪が付きだし、少しいやらしくなってきた所でアイゼンを装着した。雪が少ないため、特にロープも必要とせずピークまで登ることができた。そこから雪のついた富士山、北アルプスから南アルプスまでを望むことができた。下りは登りとは別ルートにしようということになり、夏道のトラバースルートを進んだ。こちらトレースがしっかりついており、問題ない。駒津峰まで戻ったところでアイゼンを外して一本。テン場



までの下りは双児山経由の尾根沿いのコースを選択した。双児山までは若干登るものの、その後は下りのみで、快調なペースで進んでいった。大分下った辺りから、先輩連中が長い下りに退屈してきたのか、つづら折りの下りを利用してショートカットし、先頭の追越を何度も仕掛けてきた。終に藤田さんに先頭を奪われ、その後を付いていこうとする。しかし、先頭を取ったとたん、今度は下りのペースを更に上げてきて、終にメンバーはほとんど小走り状態で北沢峠まで駆け下りていった。いやはや、先輩、まだまだ全く衰えが見えません。

【記：小田】

第4日目 12/29 (火) 曇り 行動 3H10M

起床 (5:00) - 出発 (6:50) - 丹溪山荘跡 (8:10~8:20) - 白石堰堤 (9:20~9:30)  
- 駐車場 (10:00)

長衛小屋キャンプ場は年越しのパーティーだろうか、16張りのテントが残っている。小仙丈の辺りは雲の中、風が相当強そうだ。我々は2回のアタックを終え、本日下山する。静寂の北沢峠から、丹溪に下る九十九折れの八丁坂をスピーディーに小田SLが飛ばす。さらに抜きつ抜かれつで千種アルパインクラブパーティー(下山後Pで分かった)と前後しながら丹溪山荘跡に降り立つ。本日の単調な下りルートで唯一の難所?、凍った丸太を慎重に

渡り、河原をひたすら歩く。残り1ピッチへの休憩を終え、歩きだすやいなや、吉田CLが小走りに走りだす。もちろん、つわ者のメンバーが追従しない訳がない。勝者はなんと伏兵の藤田さん。まだまだ若いもんには負けとれん・・・て、所ですか。

コースタイム(地形図)4時間40分を3時間10分の速攻で下りきり、仙流荘で3日間の汗を流し、帰路に付く。【記：町田】

<食糧報告>

日付	12/26(土)	2/27(日)	12/28(月)	12/29(火)
朝食	各自	すき煮風うどん(麺6個、卵スープ2個、生卵3個)	カレーメン(餅+カップヌードルリフィル)	カうどん(餅+どん兵衛リリフィル)
昼食	各自	各自	各自	予備 各自
夕食	・すき焼き(肉800g、白菜1/2、つゆ500cc、ネギ・しいたけ・蒟蒻等) ・ごはん(0.6号90g/人)	・肉なし青椒肉絲(青椒肉絲の元3個、竹の子400g、ピーマン18個、パプリカ1個) ・ごはん・卵スープ	・さんま蒲焼丼(レトルト+ごはん) ・味噌汁 ・海藻サラダ	
その他	おつまみ・コーヒー・お茶・コンデンスミルク等			

昨年の冬合宿に続き、美味しいすき焼きを企画した。織機の石山さん相沢さんも同じすき焼きということで、鍋と一緒に高級肉を頂いた(ごちそう様でした)。すき焼きは重いので、ベースキャンプか初日限定の山行ですね。翌日のうどんは、すきやきの残り汁を利用したすき煮風うどん、これも定番メニューでおいしくできた(織機さんから生卵を頂き、再度ごちそう様でした)。青椒肉絲(チンジャオロース)は、申し訳無いが肉を自宅に忘れ、野菜のみとなった。意外に味は悪くなく、ヘルシーだったが...すみません。なおピーマンは湯通しして持って行った。3日目以降は、手をかけずに作れるメニューとし、日清のリフィルシリーズとレトルト。餅は湯で柔らかくなるスライス餅とした。今回の反省点は、朝食にもネギなどの野菜が欲しかった点と餅はスライスとはいえ、しっかり沸いている湯を注ぐこと。

<会計報告>

<収入>					
(会費)	7428	8		59424	(残金3円)
<支出>					
ガソリン代	428	10	110	4708	(町田)
ガソリン代	428	9	110	5231	(金子)
高速代	4450	2		8900	(町田)
高速代	4450	2		8900	(金子)
車消耗代	428	5		2140	(町田)
車消耗代	428	5		2140	(金子)
仮眠室礼金				3000	
テン場代	500	8	3	12000	
食糧代				12402	(谷川)
(合計)				59421	
(1人当り)				7428	

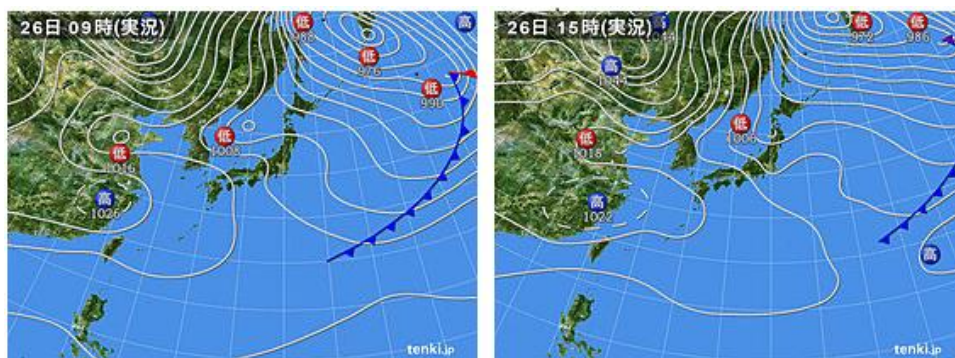
不破さん牛しぐれの差し入れありがとうございました。

<装備報告>

- ・ダンロップV8テントに8名寝たが問題無かった（ザックもテント内で）。
- ・テント場の水が利用でき、雪を溶かす必要がなくガスボンベの消費量が少なかった。
- ・テント撤収時、ポールの継ぎ目が凍り撤収に時間がかかった。  
対策として「ホカロンで継ぎ目を温めては？」という提案があった。

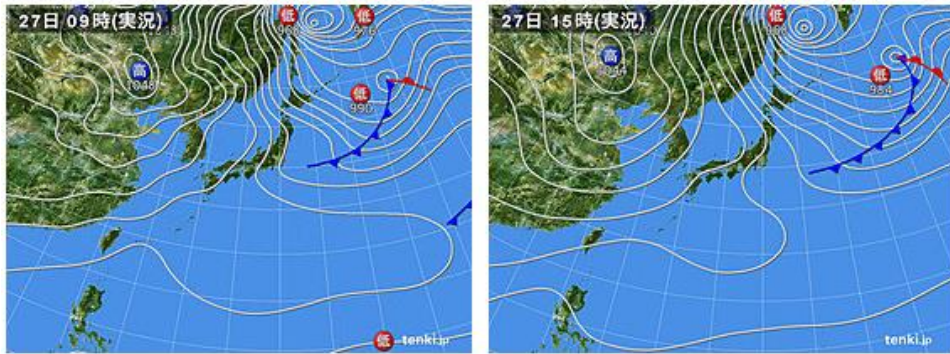
<気象報告>

12/26（土）戸台駐車場→北沢峠 曇り（時々、晴れ間覗く）風も寒さも感じず

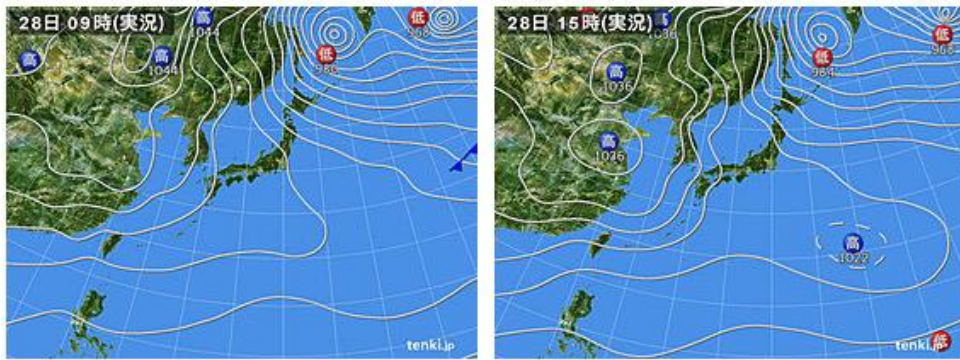


12/27（日）北沢峠→仙丈ヶ岳（ピストン）曇り後晴れ 頂上付近、風強く（30mぐらいの突風）寒い

西高東低の冬型の気圧配置で、等高線も混んでいる。予想通りの台風並みの強風。



12/28 (月) 北沢峠→甲斐駒ヶ岳→北沢峠 晴れ 風も弱く、頂上付近でも数mぐらい等高線も緩み、高気圧に覆われる。



12/29 (火) 北沢峠→戸台駐車場 晴れ 風も感じず 高気圧に覆われ、前線も日本の南。



### <CL 所見>

今年は暖冬の影響により積雪量が少なく耐寒訓練・ロープワークの練習とはならなかったが、その他の点では合宿らしい骨のある内容となった。

2日目の仙丈ヶ岳では30m/secの強風下でいつ引き返そうか考えつつも、気温・メンバの力量・時間といった条件から進むと判断、無事に登頂しテントに戻ることができた。

3日目の甲斐駒ヶ岳では前日に続き8時間強の山行でハードではあったが、微風・快晴の下で気持ちの良い山行となった。

来年は雪山山行のできる若手を連れてゆき、今回のような実りある合宿を是非若手に体験してもらいたい。【吉田】

### <メンバー所見>

強風の中の仙丈ヶ岳アタックでは普段の山行にはない緊張感と充実感を味わうことができた。冬山のすばらしさと厳しさを再度実感することのできた非常に楽しい山行でした。こういった山行をもっと色々なメンバーとこれからも実施していきたいと切に感じた。同行メンバーの皆さん、ありがとうございました。【小田】

3度目の冬山合宿で、初のV8テントで8人。確かに狭く、横よりも縦の制限が窮屈だったが、何とか眠れました。今回、強風の仙丈ヶ岳を無事登頂が一番の収穫で、今後の自信にもなりました。甲斐駒ヶ岳も、北アルプスから中央・八ヶ岳・南、富士山まで見渡せて素晴らしい一言でした。関係者・留守部員やメンバーの皆さん、ありがとうございました。帰路ゴール前ダッシュで藤田さんの体力を思い知らされ、OBパワーに脱帽でした。【谷川】

今合宿を語るなら、仙丈ヶ岳アタックに尽きる。強風の小仙丈で、或いは森林限界で全てのパーティーが北沢峠に<sup>きびす</sup>踵を返す。その状況下、吉田CLは遠望する本峰にアタックを指示する。6人の力量と風の力と雪稜の往復≒4Hを勘案しての決断だろう。敵は30m/Sの暴風だ。突風に耐風姿勢を取りつつ、風の息をつき、よろめきながらも歩を進めるメンバーに強い頼もしさを感じる。仙丈ヶ岳山頂はデンソー山岳部で独り占めした。小春日和の日向山山行では味わえない緊張感と達成感は久しぶりに私の心を充実させてくれた。同行のメンバーとリーダーと気象予報士、大矢さんに感謝する。【2015.12.30 町田 修】

入山前、少し風邪気味だった。

入山二日目、喉の痛みもあり仙丈ヶ岳六合目上部で息が上がり下山を決め、ひとりテント場まで戻った。

翌日の甲斐駒ヶ岳登山はメンバーに迷惑をかけないよう吉田リーダーに辞退を告げた。

三日目は天候も良く、待ち時間もあったので片道一時間かけて仙水峠まで行った。峠は誰もいなかった。

峠からは仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、地藏岳（オベリスク）がよく見えた。  
静寂で穏やかな冬山を感じながら一時間余り峠で過ごした。私には貴重な時間でした。  
吉田リーダーを始め皆さんには大変ご心配をおかけしました。 【金子】

皆さん、合宿お疲れ様&ありがとうございました。  
仙丈ヶ岳では強風の中での行動となり良い体験が出来たのではと思います。  
それに反し、駒ヶ岳では積雪も少なく風もなく 11 月頃の山行となり、皆さん冬山の醍醐味に欠け不完全燃焼では、と思われました。  
全体としては 8 名の参加者があり良かったと思われませんが、若手の積極的な参加を希望いたします。  
末筆ながら参加者&支援者に感謝いたします。  
ありがとうございました。 【亀山】

年齢を考え、少し躊躇するも、思い切って参加した。結果的には、天候にも恵まれたいい山行であったと思う。北沢峠までは、雪も少ない事も幸いしてか、皆のペースを崩す事もなく登る事が出来た。2 日目は、小仙丈への登りにさしかかると強風で耐風姿勢を取るも、風圧でバランスを崩し、転倒した際に内転筋を攣ってしまった。“これ以上ついて行くと皆の足を引っ張る。又、強風でのやせ尾根通過も危険。”と下山を決意。3 日目は“何としてでも登りたい”と思って出発。天候にも恵まれ（晴れで風も弱い）、甲斐駒の頂へ。仙丈は登れなかったが、冬の甲斐駒は登頂を許してくれた。みんな、ありがとう。 【津田】

強風（恐怖？）の仙丈ヶ岳と快晴弱風の甲斐駒ヶ岳、山の厳しさと楽しさを同時に体験できた冬山合宿でした。暖冬で睡眠中も寒くなく、尿意を催すことなく快適に寝られたので助かりました。夕食のすき焼きは織機の相沢さん、石山さんと酒を酌み交わし語らい、楽しい一時でした。ありがとうございました。【藤田】